

# SEIGAIHA

NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

新潟産業大学報 青海波 (せいがいは)

2011  
Vol.22

特集 教育の質の向上をめざして 1  
～新潟産業大学におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）の取り組み～

CAMPUS TOPICS 3

クラブ・サークル活動 5

図書館だより 6

キャリアサポート 7

BACK TO SCHOOL（生涯学習センター） 9

INFORMATION 10



「槍の穂先（9月）」（写真の説明は裏表紙）



新潟産業大学  
NIIGATA SANGYO UNIVERSITY

# 教育の質の向上を目指して

## 新潟産業大学における

### FD(ファカルティ・ディベロップメント)の取り組み

平成20(2008)年に大学設置基準が一部改定され、現在の大学等には「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」が法的に義務づけられています。

この「教育の改善を図るための組織的」活動を具体化したものがFD(Faculty Development)活動で、全国の大学で様々な形で取り組みが行われています。

また、この大学設置基準の改定を踏まえた中央教育審議会大学分科会の答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月)では、教育課程編成・実施の方針として、国際的な大学改革の流れに対応して「学習成果」を明確にし、教員が「何を教えるか」よりも、学生が「何ができるようになるか」に重点が置かれることが謳われ、大学における授業形態の抜本的な見直しを促しています。

FDを活用した教育の改善の方向性が、「一方的に知識・技能を教え込むのではなく、豊かな人間性や課題探求能力等の育成に配慮した教育課程を編成・実施すること」を重視する中、今回の特集では、本学の教育の質の更なる向上への取り組み状況をご紹介します。

## 『FD活動の推進に期待される役割』



新潟産業大学 FD委員長  
教務委員長

梅澤 精

「FD活動」という言葉は、大学の中でこそ普通に使われています。

が、一般にはほとんど意味不明の「業界用語」の類いだと思えます。

そこで簡単に「説明すると、FDとはCDとかPCなどと同じように英語の頭文字を並べたもので、

Faculty DevelopmentのFとDに由来します。

ファカルティは「能力」が大学

の「学部」、その「教員」などを指す言葉ですが、ここでは大学教員の教育能力や資質の意味で用いています。そのディベロップメント

つまり「開発」ですから、結局「FD活動」とは大学教員の教育面での能力開発、資質向上の活動ということになります。

長い間、大学教員の主な仕事は「研究」であり、「教育」は研究の片手間に、その成果を学生たちに教えてやるもので、学生が努力して先生から知識を引き出してくるものと考えられていました。教育方法など枝葉末節と軽んじられていた訳です。

しかし、これは大学生が対象人口の数パーセントしかいなかった時代の話で、およそ半分が大学生

である今日ではもう通用しなくなりました。いわゆる「大学の大衆化」はアメリカから始まったのですが、その多くの大学で「わかりやすい授業をどう構築するか」「どう学生たちを学問に動機づけるか」等が問題となり、そのためのFD活動が整備されていきました。

日本はアメリカに追随するかたちで大学の大衆化を迎えたため、進んだアメリカでのこの活動の名称が英語のまま導入された訳です。

実際のFD活動は多岐にわたりますが、本学では「学生による授業アンケート」と「教員相互による授業見学」そして他大学から講師を招いて行う「FD講演会」の三つが柱になっています。

「学生による授業アンケート」は現在どの大学でも行っていますが、本学では1997年から実施しています。各授業について、まずは自分の出席状況や授業への取り組みや態度などを回答した後、先生の授業に対する形式的な評価

をします。先生が遅刻や無断休講しなかったか、教室内の管理を適切にしているか、効果的な授業方法をとっているかなどについて回答します。

つぎに、授業の内容的な評価。つまり授業計画に沿っているか、明快な解説か、難しすぎたり易すぎたりしていないか、得るところのある授業か、そして最後に総合判定をします。すべての授業について行い、統計的な処理をします。評価の良くない先生には授業改善計画書を書いてもらいますし、良い先生には学長からの表彰があります。

しかし、学生による授業アンケートはあくまで学生の視点からのもので、他の教員の視点も欠かされません。そこで本学では「教員相互による授業見学」を実施し始めました。学生による評価は教員の立場から見ると本能的に射ているのか、実際にお互いに検討しあおうという訳です。

それはまた、ただ相互評価を合っただけでなく、自分の授業を反省する貴重な機会ともなります。驚くべきことかもしれませんが、大学の教員は他の教員の授業をこれまで一切知らなかったのです。自分の学生時代に受けた授業だけに役立っています。

最後にになりましたがFDの研究成果や他大学の事例がわかる「FD講演会」も相乗的に効果をあげ、本学の三つ柱からなる「FD活動」は現在着々と展開しているところです。今後とも、良い授業に向けて努力しますので、よろしくご支援お願いいたします。

## 本学におけるFD活動の歩み

- 平成9年 ・自己点検の一環として学生による「授業改善」のためのアンケート調査を学部単位で初めて実施
- 平成15年 ・全学で本格的な授業改善アンケートを開始(年2回)
- 平成19年 ・学内の教員を講師としたFD研修会を実施
- 平成20年 ・新規採用教員研修を開始
- 平成20年 ・外部講師を招き、FDに関する講演会を実施
- 平成20年 ・教員による授業相互見学を試験的に導入
- 平成21年 ・FDワーキンググループを改組しFD委員会を発足
- 平成21年 ・「新潟産業大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を制定
- 平成21年 ・授業相互見学を全学的に導入
- 平成21年 ・授業評価アンケートの結果に基づく「授業改善計画書」の作成を全教員に義務づけ
- 平成21年 ・授業評価アンケートの結果に一定基準を設け、一部の授業において担当教員による分析と改善計画を学生掲示板に公開
- 平成22年 ・大学院FD委員会を発足

## 2011秋学期授業改善アンケートを実施しました

本学では平成15(2003)年度より、FDへの取組の一環として授業改善アンケートを実施しています。

今年度の実施は春学期と秋学期の年2回(全授業を対象)として実施しました。学生の皆さんには、アンケートの目的である「授業の内容及び進め方に関し、学生の意見をひろく集めより良い授業を共に作っていくこと」を理解してもらい、貴重な授業時間を有効に活用していただいています。

また、集計・分析結果については、FD委員会で検討を行い、教員に授業改善計画書の作成を依頼するとともに授業内や掲示等で受講者にフィードバックし、それらの成果が改善に向けて確実に反映されることで、教員の教育技術の向上に役立っています。

### 実施概要

【期 間】平成23年11月14日(月)～11月18日(金)の各授業時間内

【対 象】全ての授業

【実施方法】

・授業開始20分後から60分後の間に担当事務職員が教室で実施し、そのまま回収。

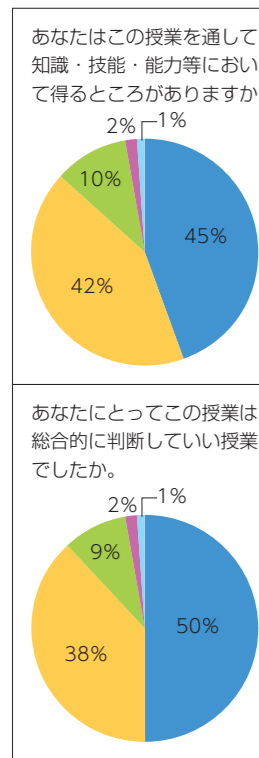
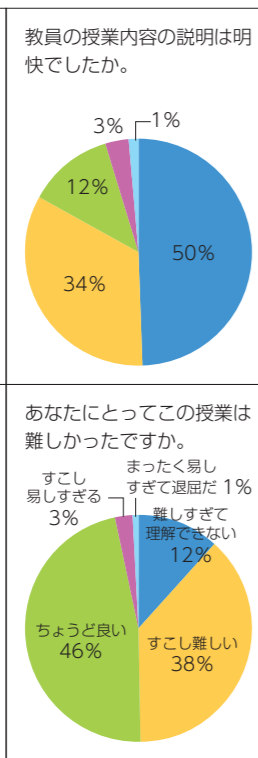
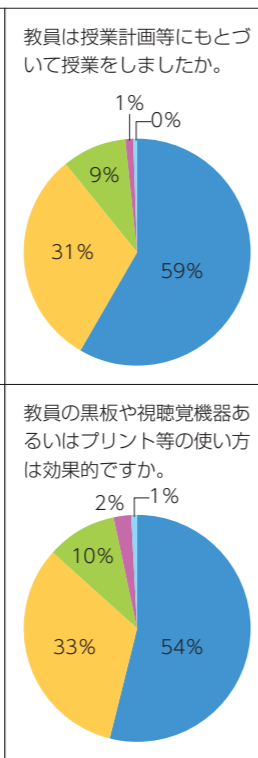
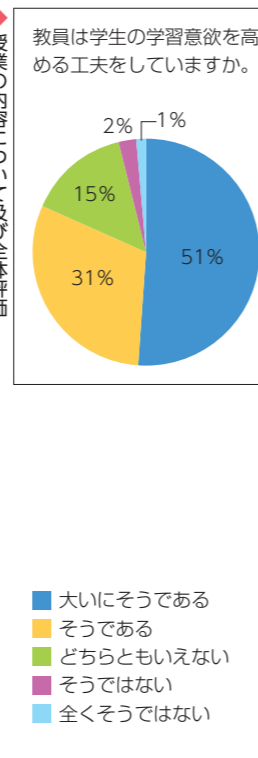
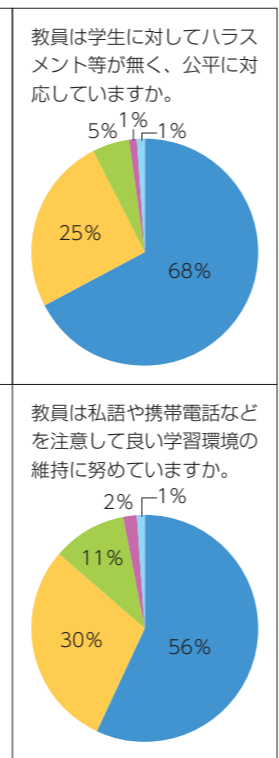
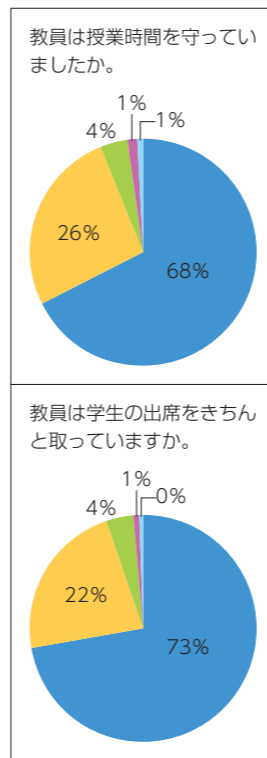
・設問内容は次学期の授業改善に役立つ事柄を中心に、「あなた自身について」「教員の姿勢について」「授業の内容について」の3つのカテゴリに分け、「総合評価」とあわせて合計16個の設問と「自由記入欄」に対して5段階で回答させる。

・設問は一般講義用、外国語授業用、ゼミ・演習用の3つの授業形態に合わせて、若干内容を変える。

【アンケート回収率】

65.74%(アンケート回収枚数/履修登録者延べ総数)

### アンケート結果(一部抜粋)



十葉町スイーツグランプリ2011に参画

（第10日町市ビジネスコンテストの  
本学学生の提案が実現しました）

今年の2月、十日町市の活性化  
産学官連携の一環として生まれた  
第10日町市ビジネスコンテ  
スト（通称トオコン）が開催され  
本学学生のチームが提案した「ス  
イーツによる町おこし」が見事グ  
ランプリに輝きました。

そしてこのトオコンを受け、平  
成23年10月10日（祝）に地元のコ  
ミュニティー放送局「FMとおか  
まち」のタイアップによって、「十  
葉町スイーツグランプリ」が開  
催され、学生たちの提案が現実の  
ものとなりました。

このイベントを実行に移すため  
学生たちは授業の空き時間や土曜  
日曜を利用して十日町市に通い、F  
Mとおかまちの皆さんや実行委員  
会の方たちと一緒に企画と準備を  
進めてきました。当日の運営にも  
学生約20人がたずさわりました。

第23回「紅葉祭」を  
開催しました

11月5日（土）、6日（日）の両日  
第23回学園祭「紅葉祭」を開催しま  
した。

今年は「Smile!! 一期一笑」  
をテーマに「笑顔プロジェクト」を  
企画。「ご来場の皆さんと一緒に  
キャンパスを、笑顔で一杯にしよ  
う」とキャンペーンを展開し、来場  
者の皆さん一人ひとりの笑顔を写  
真におさめ、一つひとつを繋いで  
大きな笑顔を作成させました。

初日は小春日和となり、朝、開場  
を待つ人だかりもできました。メ  
インステージとフリーマーケット  
を置く体育館では、軽音楽部ライ  
ブやダンス同好会パフォーマンス  
も、留学生による唄や踊りの発表、  
そして女装、男装コンテストなど  
が行われ、笑顔から爆笑へと盛り  
上がりを見せました。講堂では吹  
奏楽部演奏会、文芸部詩の朗読会、  
伝統芸能文化部舞踊発表会、地域  
の児童生徒の皆さんによるエレフ  
トーンライブが開催されました。  
また、大教室会場では、U×新潟テ  
レビ21アナウンサーの大島直子さ  
んを講師にお招きし、「直子のド  
ーンとドスコイ話」と題し、父母の  
会主催の講演会が開かれ、笑顔の  
輪が更に大きく広がりました。

2日目はあいにくの雨模様とな  
りましたが、メインイベントの人  
気音楽グループ「ソナーポケット」  
のライブを楽しもうと、午後2時  
半開場にも拘らず早朝から長蛇の  
列ができました。ソナーポケット



当日は天候にも恵まれ、会場の  
「本町2丁目広場」には、市内外か  
ら700人もの来場者がありました。  
会場では地元のアマチュアバ  
ンドが参加する音楽フェスも同時  
に開催され、大変な盛り上がり  
を見せていました。

本選の「グランプリ部門」には十  
日町市の10のお店がエントリー  
し、そば粉、米粉、サツマイモ、なめ  
こ、など地元の食材を生かしたア  
イディアたっぷりのスイーツが出  
品されました。大勢の来場者の中  
から50名が10個ずつ試食し、審査  
員と合わせた合計得点で順位を決  
めました。

また、一般の方や地元の高校生  
がエントリーした「特別部門」が同  
時に行われ、エントリーしていた  
本学経済学部1年の島田連矢さん  
が十日町そばと力ボチャで作った  
モンブラン、「そばプラン」が特別  
部門賞を獲得しました。こちらも  
今後商品化に向け検討が行われる  
とのことでした。

の演奏が始まると、これに合わせ  
て1,000人を超える観客が手  
を振って、ジャンプアップ。そのた  
びに会場の体育館は揺れ、七色の照  
明にも包まれたライブは、まさに  
一期一笑の異空間を作り上げまし  
た。

一方、学生ラウンジや教室では、  
ゼミナールのポスターセッション  
や国際文化研修旅行の写真が展示  
された他、茶道部茶会、文芸部作品  
展、水球部活動報告会、書道部作品  
展が落ち着いた雰囲気の中で常設  
され、屋外校庭では恒例のモンゴ  
ル相撲大会が開かれ、多くの公認  
部、同好会が日頃の成果を発表し  
ていました。

また、教育・学術研究に係わるイ  
ベントとして、「国際スピーチコン  
テスト」、「アサヒビル復興から  
見る地域活性化シンポジウム」、  
「大震災後の原子力発電に関する  
研究報告会」、「地球くろぶ文化祭  
」などが催され、国際色、地域色豊か  
な「紅葉祭」となりました。  
「ご来場くださった皆様並びにそ  
れぞれの催しにご参加ご協力いた  
だいた方々に厚く御礼申し上げます。

第2回十日町ビジネスコ  
ンテストに参加しました

10月22日（土）に第2回十日町市  
ビジネスコンテスト（通称トオコ  
ン）新潟予選会が開催され、本学  
を含めた県内4大学から8チームが  
参加出場しました。

トオコンとは、「とおかまちの地  
域資源を活かした新ビジネス」を  
テーマに、学生の観点から実現化  
に向けた十日町のビジネスプラン  
を提案するコンテストです。

昨年度の第1回トオコンでは本  
学から出場したチームの「十日町  
を糖菓町へくスイーツで町おこし  
」がグランプリを受賞しました。  
今回本学から参加したチーム  
は、内モンゴル留学生と日本人学  
生のグループ「モンゴル風チーム



豪雨被災地でボランティア  
活動を行いました

平成23年7月の新潟県・福島県  
豪雨の発生に伴い、新潟産業大  
学では、学生と職員によるボラン  
ティアチーム2隊を編成し、8月  
10日（水）に十日町市、8月11日  
（木）に三条市に向かい、災害から  
の復旧作業に参加しました。

〈十日町支援隊〉  
学生16人と職員3人が、炎天下  
の麻畑地区で、被災家屋の後片付  
けと神社参道の土石除去作業、崩  
落斜面のブルーシート張りを行い  
ました。家屋は一見被害がないよ  
うに見えましたが、中に入ると裏

留学生が落語に  
「驚きと感動」



と、昨年グランプリを受賞した学  
生が中心となって2連覇を狙う  
「チームNSU」です。

「モンゴル風チーム」のプラン  
は、羊肉を使ったモンゴルレスト  
ランとモンゴル村の整備を中心  
に提案した「羊でまちおこし」。  
「チームNSU」のプランは、十  
日町の絹織物の技術を存分に投  
入した高級な民族衣装をつくり、  
本学の留学生・海外在住の卒業生  
がその販売ネットワークを担って  
世界の富裕層に買ってもらうと  
いうもの。地産の物をふんだん  
に活用し美の総合プロデュースタ  
ウンとして、十日町をブランド化  
する「あなたを輝かす町 十日町」  
を提案しました。

2チームともに夏休み中、十日  
町市に足を運び企画を練り、プレ  
ゼンテーションの練習を積んでき

ドナルド・キーン博士が  
本学の特別授業を聴講

11月と12月に、学外の講師によ  
る特別授業を3回開講しました。  
特別授業は、普段の授業で学ん  
だ知識をより深く掘り下げる目的  
で、その分野の専門知識を持つ学  
外の方を招いて講演していただ  
くものです。

今回の特別授業は一般公開と  
して設定し、ひろく地域の皆様  
にご案内したところ、3回合計で  
160人の聴講がありました。  
特に、12月2日（金）の特別授業  
「日本の伝統芸能」には、世界的著



名人であるドナルド・キーン博士  
（日本文学研究者、文学評論家）が  
本学を訪れ、本学学生と席を並べ  
て授業を聴講しました。



ましたが、今回は残念ながら上位  
入賞、本選会出場は果たせません  
でした。  
参加した学生たちは、この経験  
と学習の成果に更に磨きをかけ、  
来年の第3回トオコンに挑戦しよ  
うと意気込んでいます。

山からの土砂が壁を突き破って流  
入し階段は傾いていました。神社  
参道の土砂は固くスコップが食い  
込まないうえに、多量の石を含む  
ためなかなかの重労働でした。

〈三条支援隊〉  
学生13人と職員4人が、三条市  
上保内地区で商店床下の汚泥排出  
作業と民家の汚泥排出作業を行  
いました。ひたすら重い汚泥をス  
コップでくり抜き土嚢にして運び  
出す作業でした。炎天下での作業  
のため熱中症に注意し、規則正し  
くこまめに休憩、給水をとる、全員  
無事活動を遂行することができま  
した。

被災された皆様に対し、心より  
お見舞い申し上げます。



手（上手）によって登場人物を演  
じ分けていることなど、丁寧かつ  
ユーモアたっぷりに教えていた  
だきました。扇子が刀や箸になっ  
たり、手ぬぐいが実に自然に財布  
や焼き手になったりと、その巧み  
な仕事と言葉の世界は、留学生に  
とって教室で学ぶ日本語を別の角  
度からみる絶好の機会となったよ  
うです。

イベント終了後の師匠と留学生  
の座談会では、留学生から師匠に  
「どのくらい練習したら、そんな風  
に話せるのか」とどうして落語家  
になろうと思ったのかといった質  
問が集中。その一つ一つに分かり  
やすく真摯に答えてくださった扇  
辰師匠、ありがとございました。

# 図書館だより



# クラブ・サークル活動



## 水球女子日本代表に選出されました！

本学水球部の小出未来さん(経済学部一年)が、この度水球女子ロンドン五輪アジア予選を兼ねるアジア選手権の代表選手(15名選出)に選ばれました。

アジア選手権は、平成24年1月に千葉県で開催されます。小出さんの健闘を祈ります！



## 水球女子関東学生リーグ得点王に輝く！

平成23年5月29日からスタートした水球女子関東学生リーグ(全5大学(大学連合を含む)総当たり戦)が行われ、経済学部一年 小出未来さんが36得点をあげ、見事得点王に輝きました。

女子水球部は、今年一年生が5人加入し初めてメンバーが揃ったリーグ戦です。

小出さんは「試合中、チームメイトからいいパスをもらってゴールをあげることができました。お互いに思い遣ってプレーをして勝利

## 親しみやすい図書館づくり

大学図書館というと、一般的には、難しい本がたくさん並び、近寄りたくないイメージがあるかも知れません。

しかし、最近ほどの大学図書館もあれこれ工夫を凝らし、利用者に親しんでもらおうと、さまざまな工夫をしています。

本学の図書館についても同様です。

本でいえば、ベストセラー本話題作、雑誌については、ファッション誌・情報誌など、手に取りやすいものを揃えています。

親しみやすいものから、少し難しいものへと、チャレンジするきっかけになってくれることを期待しています。

また、図書館の環境づくりとして、お昼休みのひとときに、図書館が癒しの空間となるよう、ヒーリングミュージックを流しています。

これからも、より親しみやすい図書館を目指し、さまざまな取組みをしていきたいと思えます。ぜひ、図書館へ足をお運びください。

することが重要だと思えます。今回の受賞はうれしいですが、まだまだ力不足なので、練習を重ねて今後さらにチームの順位が上がると強く語ってくれました。「戦績は全5チーム中4位」

## 茶道部

### 救護施設で茶会を開催

平成23年9月8日(木)に茶道部が、柏崎市内の救護施設「かしわ荘」を訪れ、茶会を開催しました。施設内に簡易な立礼席を設置し、部員が順に手前を行いました。

また、司会進行、立て出し、茶菓子やお茶運びも部員が行い、施設の利用者の方々が楽しんで茶会に参加していただくことができました。活動を通じて、部員一人ひとりが人前で手前の披露を行ったり、茶会の運営に携わることができ、とてもいい経験になりました。

これからこのような活動を続けていきたいと思います。



## ipad2を入れました

図書館では今年度、館内に、無線LANを設置し、同時にipad2を2台導入しました。スタッフも学生も、初めて触る情報端末におっかなびっくりでした。

しかし、そこは若者。次第に使い慣れてきたようで、さすがです。

ipad2は、使い次第でたくさん可能性が広がります。

今後、電子書籍や、雑誌・新聞のデジタル版など入れ、内容を充実させていきたいと思えます。お楽しみに。



話題本は、学生のみならず教職員にも人気



## ライフセービング部 大野君が全日本・種目別で優勝！

平成23年5月14日から二日間わたって開催された「第24回全日本ライフセービングプール競技選手権大会」において、経済学部二年の大野翔平君が種目「4×50m障害物リレー」で見事優勝を果たしました。

本人のコメントです。

「去年は、同じ種目で2位という残念な結果で悔しい思いをしましたが、今回優勝でき、とても嬉しいです。今回はリレー競技でしたので、個人でも活躍できるように日々鍛錬し結果を出したいです。」

今後の更なる飛躍を期待します。



## 古本市開催！

11月5日(土)学園祭初日、図書館主催の「古本市」を開催しました。

これは、図書館で除籍した専門書や雑誌、教職員から寄付された一般書、絵本、など、約1,000冊を出品し、224冊(¥35,530)を売上げました。

当日は、本好きのお客さんで賑わい、中には、シリーズものを何セットも購入された方がおられ、主催者として、感謝の気持ちでいっぱいでした。

本場にありがとございます。

売上金は、本学の教育環境をより充実したものとするために、有効利用させていただきます。好評につき、来年度も実施できるように考えております。どうぞ、ご期待ください。



学園祭古本市開催の様子

## 伝統芸能文化部の活動

伝統芸能文化部は古典的な本格派の日本舞踊から、刀や棒などの武器の扱い方を模した武士の踊りなど、主に「日本」の伝統芸能を学ぶことを中心に、多岐にわたる幅広い活動を行っています。

踊りを通じて、日本の礼儀作法が自然と習得できるのも魅力です。部員は現在15名で、毎週水・金の二回、本学講堂にて外部講師の先生から舞踊指導を受けています。

韓国・中国・モンゴルからの留学生も所属し、国際交流も盛んです。歴史を背景に、品格を持ち「目配り・気配り・心配り」を心がけて稽古しています。

写真は11月12日(土)・13日(日)に柏崎市民プラザで行われた「市民芸能発表会」マナビイステージ「inかしわぎ」2011に出演した時のものです。

同部より三組が発表し、拍手喝采で、大勢の市民から握手を求められるなど、大成功を収めました。



## 一般の方も本学図書館をご利用いただけます。

学外の方も、図書館をご利用いただけます。

来館の際は、カウンターで利用票にご記入いただき、ネームプレートをご着用願います。

館内では、職員の指示に従って下さい。

閲覧は、基本的に自由です。

蔵書の貸出は次のとおりです。

### ●対象

15歳以上(中学生は除く)の柏崎市内在住・在勤の方

●貸出冊数:3冊以内

●貸出期間:2週間以内

●その他/初めて利用される方は、住所・氏名を確認できるもの(免許証・健康保険証など)をご用意ください。

ご不明な点は、お気軽に左記までお問い合わせください。



新潟産業大学 附属図書館  
0257-24-8435  
E-mail library@ada.nsu.ac.jp

4年生内定者への就職活動インタビュー

就職活動の体験を先輩達に伝えてもらおうと4年生の就職内定者4名に集まってもらい就職課長がインタビューしました。誌面の都合、掲載部分はほんの一部となりましたが、当日は1時間以上にわたり熱く語ってもらいました。4年生の皆さん有難うございました。



**吉井 愛美さん**  
経済学部 経済経営学科  
【医療・福祉業】  
（医）厚生会南浜病院の事務職として就職決定



**萩野 祥向さん**  
経済学部 経済経営学科  
【精密機械・器具製造業】  
金井重機 営業職として就職決定



**飯塚 あずささん**  
経済学部 経済経営学科  
【建設（コンサルタント）業】  
（株）ナルサワコンサルタントの事務職として就職決定



**清野 幹基さん**  
経済学部 国際コミュニケーション学科  
【金属製品製造業（休近正の営業職として就職決定

**長井 就職課長** 就職活動お疲れ様でした。現在「超氷河期」とも言われる厳しい就職環境にあり、学年を問わず多く後輩たちが就職に対する不安を抱え大学生活を送っています。今日は皆さんの就職活動の体験を通して後輩にアドバイスをしていただきたいと思います。それではまず皆さんが大学に入って就職活動を意識したのはいつ頃からですか？また、それをきっかけに行動を起こしたことはありませんか？

**清野** 2年生の時に部活動の先輩達が就職活動に取り組んでいた姿を見て、意識をし始めました。その時は特別何もしていません。  
**飯塚** 二つ上の先輩が就職活動を始めた時からです。先輩に何をしたら良いのか相談したら、積極的に学生生活を送ることをアドバイスされましたので、大学の行事や他大学との交流、簿記の資格取得にも積極的に取り組みました。

**萩野** 2年生のキャリアデザインの授業です。毎回、就職・仕事について言われるので否が応もなく考えずにはいられなくなったという感じです。実際に行動を起こしたのは3年の秋、就活支援のセミナーが始まった時からです。  
**吉井** 当時、意識的に行動したのは3年生の春の就職ガイダンスと夏の会計事務所でのインターンシップを経験してからだったと思っていましたが、今改めて考えると大学で簿記に興味を持ち日商簿記2級資格を取得したことが進路を選定するうえで大きく影響していたように思います。

**長井** 部活動やサークル等の先輩とのコミュニケーションや、講義内容、学問分野の興味など、様々な要素が就職のきっかけになっているようですね。私たちも大学生活に積極的に関わることが就職するうえで重要であることを学生や保護者に対し真っ先に伝えていますが、怠け心に負けてしまっている学生もいます。そういう学生には皆さんの意見を参考に是非奮起してもらいたいところです。  
**清野** それでは実際に就職活動を始めた段階で準備不足だったと反省したことはありませんか？  
**吉井** 履歴書を書く時に自己PRが上手く書けなくて早く準備しておけば良かったと反省しています。

**萩野** 書くエピソードはありましたが、文章にまとめることに苦労しました。また、志望動機についても内容が薄っぺらで、就職活動前半に接触した企業に対しては自分の良さを半分も伝えられていなかったように思います。  
**吉井** 私も何を書いたら自己PRになるのか苦労したように感じます。  
**萩野** 相手に伝わる書き方が分からなくて苦労しました。  
**飯塚** 企業には何百枚も履歴書が届くのに、読んでもらえるようなインパクトのある内容にならなくて大変でした。最初の頃意気込みはありましたが、リアリティーが無かったです。

**長井** 皆さんは充実した大学生活を送り、履歴書に書く素材には事欠かなかったようですが、それを整理して自分らしさを理解し相手に伝えるための作業、まさに「自己分析」の作業に甘さがあつたようですね。実際には「履歴書に書く内容が無い」と相談してくる学生が近年多いのですが、そういう学生に対してアドバイスはありますか？  
**萩野** 自分が面接で聞かれたら、答えやすいことを書くかと思えます。例えば身近な生活のことかでもいいと思います。私の場合もずば抜けたドラマティックな体験なんてありませんので、大学生活の実体験を素直に書きました。自分の長所・短所については自分で客観的に判断することが難しいので友人に書いた文章を添削してもらったりもしました。  
**飯塚** きちんと自己分析をした意識はありませんが、例えば長所と短所は表裏一体なので、見つけ易い自分の短所から逆に自分の長所を見つけたりました。そこから広げていって授業のこと等を考えました。

**長井** 客観的に自分のことを見つめる機会というのはそうそうあるものではありません。友人やアルバイト先の店長、親などと身近な関わりの中で評価を聞くことは有効な手段だと思います。  
ところで、話は変わりますが現在の就職活動はインターネットが中心となりますが、そ

の活用について伺います。

まずエントリー社数、受験社数等について教えてください。

**萩野** エントリーは100社。そのうち採用試験を受けた会社は10社程度です。欲張って何でもエントリーしてしまつと企業からの返信メールの処理だけで大変な作業となり本命企業の情報を見損なう可能性もあります。また、多すぎると説明会や選考の日程も重なる確率が高くなり、日程変更によりスケジュール調整も行いましたが体力的にも持たなかつたです。実際100社のうち行きたいと思った企業は受験した10社でした。エントリーは興味を持った企業に絞って自分でさばき切れる量にコントロールすることが大切です。  
**吉井** エントリーは70社受けた企業は20社と多かつたのですが、本当に行きたいと思った企業は10社程度でした。

**清野** 私は他の人よりエントリー数は非常に少なく30社程度しかしていませんが、それでも1日にメールが多い時には20社くらいから来て、処理するのが大変でした。  
**飯塚** 私は50社程度エントリーして、受けた企業は8社程度です。私の場合限定的な条件で企業を選択してしまつたのでこれ以上増やすことができませんでした。  
**長井** 皆さんの行ったエントリーというのは、昔の資料請求に近いイメージですね。沢山の企業情報を得て欲しいと思いますが、説明会、選考の重複で機会を失っている学生の姿も沢山見えています。効率的なエントリーを行うためにも学生には事前に十分な企業研究を行うことを実践してほしいと思います。


それでは次の質問です。就職を決定した企業で内定を獲得できた要因は何だと思えますか？  
**清野** これは内定者懇談会で企業の方に言われたことですが、「面接で成功体験を聞いた時に君の考えや行動が伝わってきたから決めたと言われました。実際に面接でその成功を収めるためにどのように考え努力したかを一生懸命伝えました。」  
**飯塚** 自信があるのはグループディスカッションで他の受験者がうっむぎ加減でいる中、顔を上げて堂々と話すことができたことですが、それが決定打となつたというより、会社の説明会から筆記試験とあわせてトータルでの入社意欲を評価いただいたからだと思います。

**吉井** 私も決定打は思いつきませんが、事務職希望するうえで、自分の持っている資格（日商簿記2級）が活かされたかもしれません。  
**萩野** 私が内定をいただいた企業は個別の会社訪問も可能であつたので、十分な自己PR機会と企業理解の時間をいただけたことです。私自身、選考期間で合否結果だけでなく企業との信頼関係を築くことができたように感じています。

**長井** 女子学生の皆さんは比較的謙虚な回答でしたね。飯塚さんはその明るさは大学時代の積極的な行動と実績を表していましたし、吉井さんは日商簿記2級の取得事実も然ることながら、目的意識と取得するまでの努力が吉井さんの人となりを表していると思います。企業もそのところを評価されていたんだと思います。

それでは最後となりますが後輩に何かアドバイスはありますか？  
**萩野** これは是非言っておきたいことですが、就職課からの電話は絶対に出たほうが良いです。私が最終的に就職を決めた企業は就職課から紹介していただいたものです。リクルートやマイナビ等に参加している企業は全体のほんの一部です。特に地元根差した中小の優良企業の大半は参加していないと思います。そういった企業の情報も就職課では把握していますので上手く使って欲しいと思います。  
**清野** 周りに流されなくて自分をしっかりと持って欲しい。ビジョンを持ち、周りより先に自分が行動するくらいの気持ちが大切です。

**飯塚** 去年の自分は一時期合同企業説明会に参加するだけで就職活動をしている気分になっていました。落とされることを恐れず早めに企業の選考を受けるようにしたほうが良いと思います。1社受けてしまえば、恐れず次々と受けることが出来るようになります。頑張ってください。  
**吉井** とにかく動き続けることが大事だと思います。最初は採用試験に落ちることでショックを受けていましたが、慣れて冷静に対処できるようになると学ぶことも多く自分自身が成長していくことができます。いつまでに就職活動を終わらせるという自分なりの就職活動の目標を立てて行動してください。

**長井** 本日は長い時間有難うございました。卒業後は皆さんも新しい環境で新たな目標に向かって頑張ってください。  


新潟産業大学の就職支援

- 1年次～  
就職ガイダンス(4・9月)  
春学期日常公務員講座  
TOEIC講座(秋学期)  
夏期公務員特別講座&ガイダンス  
春期公務員特別講座&ガイダンス  
初級公務員模試(基礎3回・実践3回)  
上級公務員試験(全5回)  
一般常識模擬試験(10月)  
授業科目「キャリアデザインⅠ」(秋学期)  
キャリアカウンセラーとの面談(随時)
- 2年次～  
就職ガイダンス(4・9月)  
授業科目「キャリアデザインⅡ」(春学期)
- 3年次～  
就職ガイダンス(4・5・9月)  
模擬適正検査(4月)  
就職試験対策講座(6・7月)  
ゼミ単位個人進路面談(6・11月)  
インターンシップ(夏季休暇中)  
長期インターンシップ(不定期)  
業界職種研究・自己分析等就職セミナー(6月～12月)  
就職合宿研修会(12月)  
学内合同企業説明会(2月)  
授業科目「キャリアデザインⅢ」(秋学期)
- 4年次～  
就職ガイダンス(4月)  
個人面談・求人紹介(随時)

# Back to School (生涯学習センター)

## 聴講講座

春期は、34講座中17講座に33名の、秋期は30講座中16講座に32名の市民の方が、大学生と一緒に受講されました。受講者は柏崎地域以外から初めて参加された方や5年以上聴講されている方などさまざまで、職業や年齢に関係なく、社会人の方の「学びたい」「気持ちに込める講座を開設しています。」

- ☆聴講講座人気トップ3
- ① 韓国語演習Ⅱ(蓮池 薫) 6名
  - ② 東洋史(金光林) 5名
  - ③ 韓国経済論(権 五景) 5名

## 聴講講座・公開講座の「案内」

新潟産業大学では、一般社会人を対象とした各種講座を開講しています。

### ■聴講講座

本学で開講している講義から興味のあるものを1科目単位で選び、学生達と席を並べ聴講していただく講座です。性別、年齢、学歴等に関係なく、ごなたでも受講できます。

一つの科目につき、基本的に週1回同一の曜日時限90分、15週にわたり開講しています。(単位認定は行いません。)2週目の授業まで、無料で全ての講義を聴講できます。3週目以降の受講を希望される場合は有料となり、教務課で所定の申込手続きをしていただきます。

### ■公開講座

本学専任教員が、専門分野に基づいたテーマで開講する教養講座です。

一つの講座は2回〜5回で構成され、お仕事が終わってから受講できる夜間や土曜日に開講しています。講座により募集・開講時期が異なります。各種講座の詳細・最新情報は、本学Webサイト [http://www.nsu.ac.jp/nsu\\_j/llc/index.html](http://www.nsu.ac.jp/nsu_j/llc/index.html) よりご確認ください。

## ご挨拶



生涯学習センター長  
経済学部 教授  
片岡 直樹

新潟産業大学生涯学習センターでは、大学の授業を一般の方向けに開講する「聴講講座」、お仕事の帰りや土曜日に受講できる「公開講座」を開催しています。

## 公開講座(柏崎)

柏崎地域における公開講座は、春期に3講座(リスニング力を極める英語教室、「楽しい中国語10回講座」など)、秋期に5講座(「エネルギーと環境問題」、「韓国ドラマで学ぶ会話表現」など)を開講し、春期は31名、秋期は84名が受講されました。



## 公開講座(長岡・上越)

上越地域では、「韓半島と越後の関係」に24名、長岡地域で実施した講座「災害対処の文化史」に6名の市民が講義を受けられました。



## 公開講座(十日町)

平成23年度は、初めて十日町地域で6つの公開講座(経済学による処方箋)、「もしドラから地域を考える」などを開講し、計121名の方が受講されました。中でも韓国の言語・文化や経済・社会に焦点をあてた講座「韓国を読み解くキーワード」には、51名の方が受講されました。



## かしわざき市民大学

前期の3講座「日本美術史講座」「韓国文化講座」「米オバマ大統領就任演説を聴く」に計83名が、後期4講座のうち、本学教員が担当した2講座「心も身体もスッキリ健康」「映画と小説の不思議な関係」に計37名が受講されました。



## 地球くらぶ

8月初旬に、枇杷島小と日吉小の各児童クラブを訪問し、本学留学生が、地元小学生に外国の文化や言語・習慣などを楽しく紹介しました。また、紅葉祭イベントの一つとして、「地球くらぶ文化祭」を実施し、地元の小・中学生に外国の食べ物やお菓子の試食、外国のゲームなどを留学生と一緒に体験してもらいました。



## 平成23年度「ことばのひびきⅧ」を開催します

今年度で8回目となる詩の朗読会「ことばのひびき」を次のとおり実施します。市内の高校生や本学学生ら約25名が、日頃の学習の成果を発揮し、日本語や外国語で詩の世界を詠みあげます。留学生による舞踊もあり、趣向を凝らした内容となっています。多くの方のご来場をお待ちしております。

日時:平成24年2月11日(土・祝)  
13時30分〜15時  
場所:柏崎エネルギーホール



## 平成24年度 新潟産業大学生涯学習センター「友の会」入会のご案内

本学生涯学習センター「友の会」は平成13年度に発足してから今年で11年目を迎えます。今年度の会員数は、25名となりました。特典

1. 受講料の割引…本学主催の各講座が20%の割引となります。
  2. 講座の先行受付
  3. 会報等資料送付 などです。
- 申込方法
1. 所定の申込書にご記入の上、郵送 FAX: 0257-24-8441 または大学窓口にてお申し込み下さい。
  2. 年会費(一般会員)は、2,000円です。
  3. 新規会員の方には、会員カードをお渡しいたします。

4. 入会期間は、平成24年4月1日〜平成25年3月31日の1年間となります。

詳細につきましては、  
[http://www.nsu.ac.jp/nsu\\_j/llc/tomonokai\\_info.html](http://www.nsu.ac.jp/nsu_j/llc/tomonokai_info.html)  
をご覧ください。  
新潟産業大学生涯学習センター  
〒0257-24-8441  
☎0257-24-8441  
☎0257-22-1300  
E-mail [llc@ada.nsu.ac.jp](mailto:llc@ada.nsu.ac.jp)



## 修学支援制度について

新潟産業大学は、経済的事情により修学が困難な学生に対し、授業料の半額を免除する制度を設けています。

先行きの見えない不況下、勉学意欲がありながら、やむを得ず大学進学をあきらめるケースや、入学後にも保護者の失業等で学業の継続について常に不安を持ち、修学に専念できない等のケースが、全国の大学で報告されています。

本学では独自の支援制度を実施することにより大学進学や学業継続にかかる家計負担を軽減し、修学する意欲を持つ学生をサポートしています。

対象者	学費負担者および家計を一にする家族の経済的理由により、修学が困難な学生。
申請要件 (年間所得の上限)	自宅通学者：300万円程度以下 自宅外通学者：350万円程度以下
軽減額	年間授業料(660,000円)の半額を免除(軽減期間は1年間)。 平成23年度は、16人の学生がこの授業料減免を受けています。 ※毎年度、申請、採否更新審査。

先：新潟産業大学入試課  
0120-787-124

## 平成24年度入試日程概要(各学科共通)

入試区分	一般前期日程 (2科目方式)	センター利用 前期日程	一般後期日程 (2科目方式)	センター利用 後期日程
出願期間	H24.1/10(火)~1/31(火)	H24.1/10(火)~2/2(木)	H24.2/15(水)~3/6(火)	H24.2/15(水)~3/16(金)
試験日	H24.2/4(土)		H24.3/10(土)	
合格発表	H24.2/14(火)		H24.3/14(水)	H24.3/22(木)
試験会場	柏崎・新潟・長野・酒田・郡山		柏崎・新潟	

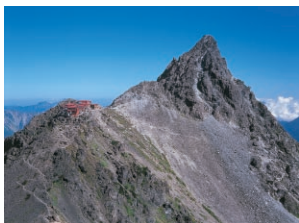
入試の詳細・大学院経済学研究科の入試については、2012入学試験要項でご確認ください。

### 表紙の写真

#### 「槍の穂先(9月)」

撮影者 川上 繁雄

事務局 教務課 生涯学習センター



北アルプスのランドマークで、アルピニストの憧れの山、槍ヶ岳(3180M)。山荘(写真左)からは鎖場とほぼ垂直な梯子が連続する登路ですが、3点支持を守って慎重に登れば、誰でも登れます。晴れているときほど高度感を感じますが、その穂先に立って360度のパノラマを見ると、この山が「北アの盟主」と言われる理由がわかります。写真は夏山の最盛期を過ぎ、静けさを取り戻した9月の初旬。登山者が写らないように待ち続けて撮った1枚です。

## 学事日程(平成24年1月~6月)

平成23年度			平成24年度		
月	日	行事等	月	日	行事等
1月	5日(木)	授業開始	4月	4日(水)	入学式
	19日(木) ・21日(土)	補講日		5日(木) ~6日(金)	ガイダンス・健康診断
	24日(火) ~30日(月)	秋学期末試験期間		6日(金) ~7日(土)	新入生学外合宿研修
	31日(火)	秋学期末試験予備日		9日(月) 9日(月) ~13日(金)	春学期授業開始 履修登録期間
2月	6日(月)	追試験	5月		
	10日(金)	日本漢字能力検定			
	21日(火)	卒業生発表			
	26日(日) 28日(火)	日商簿記検定 再試験		2日(土)	創立記念日・日本漢字能力検定
3月	6日(火)	再試験による卒業生発表	6月	3日(日)	ハングル能力検定
	17日(土)	卒業式		9日(土)	父母の会総会(予定)
	25日(日)	中国語検定		10日(日)	日商簿記検定
				24日(日)	経営学検定・中国語検定

## 編集後記

その年の世相を漢字一字であらわす「今年の漢字」として、平成23年は「絆」が選ばれました。

今年は国内外で多くの自然災害に見舞われた年でした。そんな時に感じた、身近にいるかけがえのない人との繋がりが、苦しい境遇の人々への支援の輪を広げる思いやりの気持ちが、「今年の漢字」に相応しいと支持される所以であることは言うまでもありません。

その一方で思い返すと、阪神・淡路大震災の平成7年は「震」、新潟県中越地震の平成16年は「災」と、大きな災害に見舞われた年は、どちらかというとき暗い印象の漢字が選ばれていました。

それに対して今年、暖かみのあるニュアンスを持つ「絆」が選定された意味を考えた時、奇しくもそのことが、平成23年がいかに大変な年であったかを逆説的に物語っているような気さえます。

「絆」は、離れないよう繋ぎとめる綱の由来から、人と人を離れ難くしている結びつき、ということを意味しています。

今号の特集で取り上げたFD活動は、大学教員の能力開発や資質向上に重点が置かれています。この取組を進めることにより、学生及び保護者の皆さんや地域の方々や本学との間の「結びつき」が一層強いものとなるよう願って止みません。

新潟産業大学 メディア・広報・企画課



## 青海波 (せいがいは)

雅楽の舞人の装束に用いられた波形式文様で、同心円状の波を前後左右交互に重ねた幾何学的な文様。

この文様の由来は遠くシルクロードまで遡るとされており、これを本学の校章(3つの波)に重ね合わせ、地域を知り世界を知ることの象徴として、本学の情報発信媒体である学報の名称に採用しました。

●発行日/平成23年12月15日

●編集・発行/新潟産業大学広報委員会

新潟県柏崎市軽井川4730番地 TEL 0257-24-6655 FAX 0257-22-1300